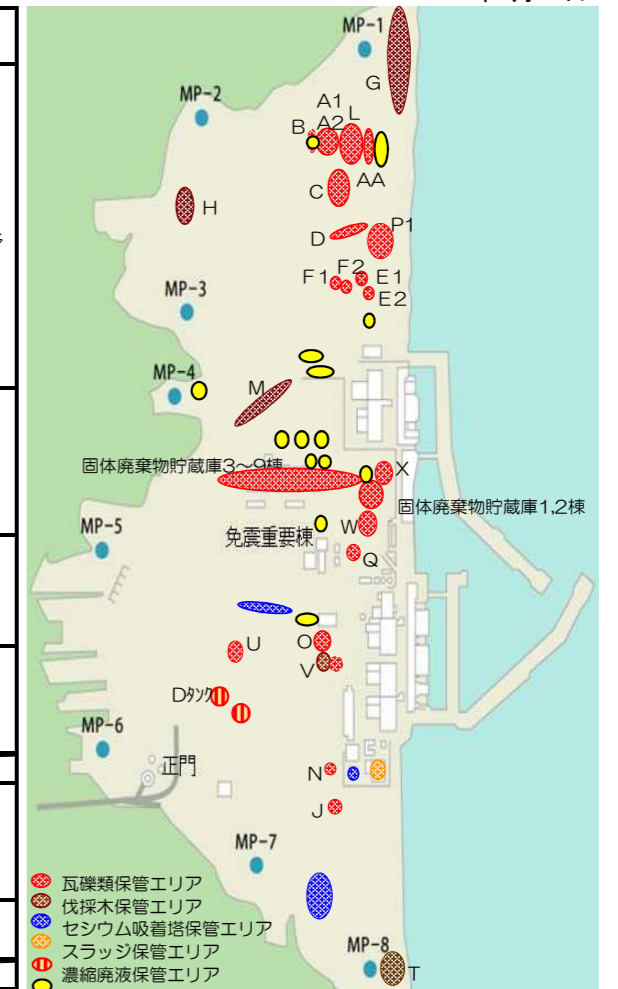


分野名	目標工程	活の	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月以降		備考			
					14	21	28	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26		2	9	16
固体廃棄物の保管管理 処理・処分計画	●その他廃棄物対策関連作業 -今後の廃炉作業の進捗状況等を踏まえつつ、現在整備を進めている放射性物質分析・研究施設を活用し、固体廃棄物の処理・処分等の検討に必要な性状把握を進めていく。	処理・処分計画	3. 固体廃棄物の性状把握	(実績/予定) ・【研究開発】固体廃棄物のサンプリング・保管管理 ・【研究開発】廃棄物試料の分析(現場: JAEA東海等)	検討・設計 サンプル計画検討 分析計画検討 分析データ取りまとめ		現場作業 水処理二次廃棄物分析		計画に基づいたサンプリングの実施		汚染水分析		瓦礫類分析		(2022年3月完了予定) (2022年1月完了予定) (2021年12月完了予定) (2022年3月完了予定)		・多核種除去設備の運転状況に応じて順次試料を採取 ・瓦礫: 覆土瓦礫、1号機周辺瓦礫、3号機原子炉建屋内瓦礫類のデータを取り纏め中。 ・汚染水: 建屋滞留水を分析中。 ・水処理二次廃棄物: ALPS吸着材等を分析中。濃縮廃液スラリー、土壌セオライト等の分析データをデータベースに収録。 ・これまでの分析結果は以下のウェブページにまとめられている リスト: https://clads.jaea.go.jp/rd/tech-info.html 検索: https://frandl-cb.jaea.go.jp/FRAnDL/							
					●分析施設 -今後の廃炉作業の進捗に応じて必要となる分析機能を有する施設を設置	4. 研究施設の設置	(実績/予定) ・建屋現地工事 ・連絡通路等工事(連絡通路内装工事、建屋内仕上げ工事等) ・主要内装設備等工事 ・送排風機風量不足対応	現場作業 建屋現地工事		送排風機風量不足対応		管理区域用送風機、排風機の単体作動試験(2台運転時の風量不足を確認。総合機能試験の時期は原因調査の結果を踏まえて検討。		(検討継続) (検討継続)		(2021年1月完了予定)		・2021年1月: 管理区域用送風機、排風機単体作動試験 管理区域用送風機、排風機の単体作動試験(2台運転時)の風量不足を確認。 竣工予定時期は原因調査の結果を踏まえて検討。						
								バイオアクセス施設	(予定) ・設計検討		設計検討		(2022年1月完了予定)		(2022年1月完了予定)									
								総合分析施設(予定)	(予定)		(予定)		(予定)		(予定)									
					・概念検討に向けた準備段階(計画が決まり次第反映予定)																			

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2021.3.31時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量	前回集約からの増減 ^{※1} (2021.2.26 - 2021.3.31)	変動理由 ^{※2}	エリア 占有率	保管量 ^{※3} /保管容量 (割合)	トピックス
瓦礫類 屋外集積 (0.1mSv/h以下)	A	屋外集積	0.15	500 m ³	0 m ³	—	0%	225300 / 270200 (83%)	<ul style="list-style-type: none"> ・フランジタンク解体片 2021年3月末時点でコンテナ1,143基保管。 エリアP1コンテナ数：628基 (2015年6月15日～) エリアAAコンテナ数：515基 (2018年3月15日～) ・エリアAは1～30mSv/hの瓦礫類をテント内に仮設集積中。これら瓦礫類を固体庫に移動後、低線量率瓦礫類一時保管エリアとして使用予定。 ・エリアCのエリア整理により、保管容量(3,700m³)増加。 (2020年7月)
	B	屋外集積	0.01	5,300 m ³	0 m ³	—	100%		
	C	屋外集積	0.01未満	67,000 m ³	微増	③⑫	100%		
	F2	屋外集積	0.01未満	6,400 m ³	0 m ³	—	85%		
	J	屋外集積	0.01	6,200 m ³	0 m ³	—	78%		
	N	屋外集積	0.01未満	9,600 m ³	0 m ³	—	96%		
	O	屋外集積	0.01未満	44,000 m ³	0 m ³	—	86%		
	P1	屋外集積	0.01未満	62,600 m ³	0 m ³	—	98%		
	U	屋外集積	0.01未満	700 m ³	0 m ³	—	100%		
	V	屋外集積	0.01	6,000 m ³	0 m ³	—	100%		
瓦礫類 シート養生 (0.1～1mSv/h)	AA	屋外集積	0.01未満	17,000 m ³	0 m ³	—	47%	42300 / 71000 (60%)	
	D	シート養生	0.01未満	2,600 m ³	0 m ³	—	58%		
	E1	シート養生	0.02	14,600 m ³	微増	⑫	91%		
	P2	シート養生	0.01	5,900 m ³	+100 m ³	⑨⑫	65%		
瓦礫類 覆土式一時保管施設、 容器(1～ 30mSv/h)	W	シート養生	0.03	11,300 m ³	-400 m ³	⑤	39%	17900 / 24600 (73%)	<ul style="list-style-type: none"> ・主な瓦礫類は、1～4号機工事等で発生した瓦礫類。
	X	シート養生	0.01	7,900 m ³	0 m ³	—	65%		
	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	16,000 m ³	0 m ³	—	100%		
瓦礫類 固体廃棄物貯蔵庫	E2	容器 ^{※4}	0.01未満	1,200 m ³	0 m ³	—	68%	25500 / 39600 (64%)	<ul style="list-style-type: none"> ・主な瓦礫類は、1～4号機工事等で発生した瓦礫類。 ・固体庫9棟2階の運用変更により、保管容量(8,400m³)減。 (2021年2月)
	F1	容器	0.01未満	600 m ³	0 m ³	—	99%		
	Q	容器	-	0 m ³	0 m ³	—	0%		
合計(ガレキ)				311,000 m ³	+1,100 m ³	—	77%		
伐採木 屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	屋外集積	0.01未満	25,300 m ³	0 m ³	—	63%	97200 / 134000 (73%)	
	H	屋外集積	0.01未満	31,700 m ³	0 m ³	—	74%		
	M	屋外集積	0.01未満	39,600 m ³	0 m ³	—	88%		
	V	屋外集積	0.01	600 m ³	+100 m ³	⑦	10%		
伐採木 一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	26,200 m ³	0 m ³	—	88%	37300 / 41600 (90%)	
	T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100 m ³	0 m ³	—	94%		
合計(伐採木)				134,500 m ³	+100 m ³	—	77%		
保護衣 屋外集積		容器	0.01	32,200 m ³	+1,000 m ³	⑬	47%	32200 / 68300 (47%)	<ul style="list-style-type: none"> ・使用済保護衣等焼却量 9,187t (2021年3月末累積) ・焼却灰(プラスチック含む)のドラム缶数 2,427本 (2021年3月末累積)
	合計(使用済保護衣等)				32,200 m ³	+1,000 m ³	—	47%	



※1 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは50m³未満の増減を示す。
 ※2 主な変動理由：①1～4号機建屋周辺関連工事 ②タンク関連工事 ③敷地造成関連工事 ④構内一般廃棄物 ⑤エリア整理のための移動 ⑥フランジタンク除染作業
 ⑦伐採木受入 ⑧港湾関連工事 ⑨水処理設備関連工事 ⑩砕石取り出し ⑪5,6号機建屋周辺関連工事 ⑫その他作業 ⑬焼却運転の未実施
 ※3 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。
 ※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。

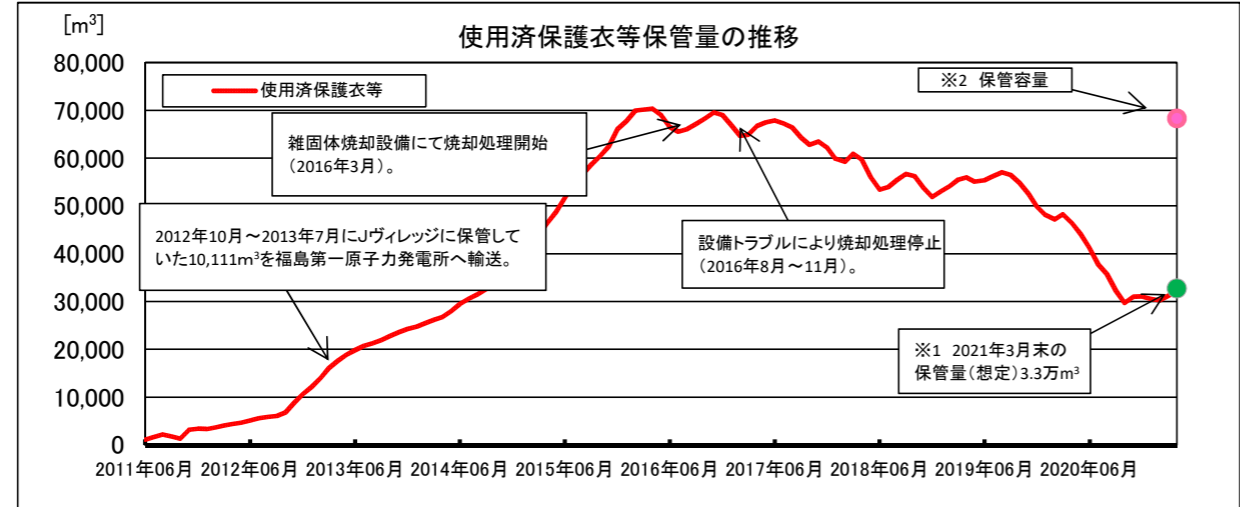
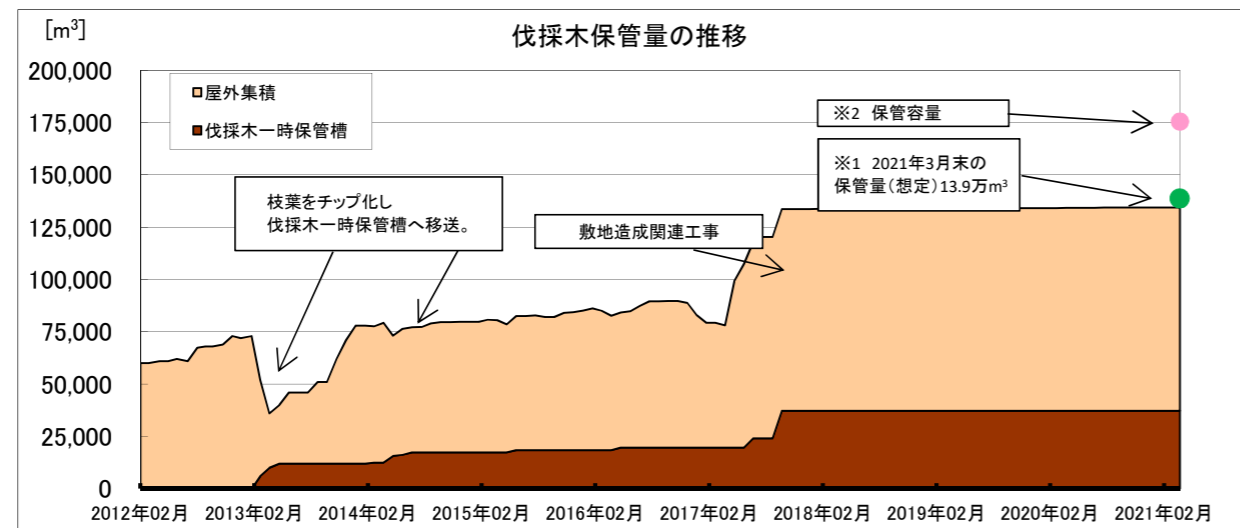
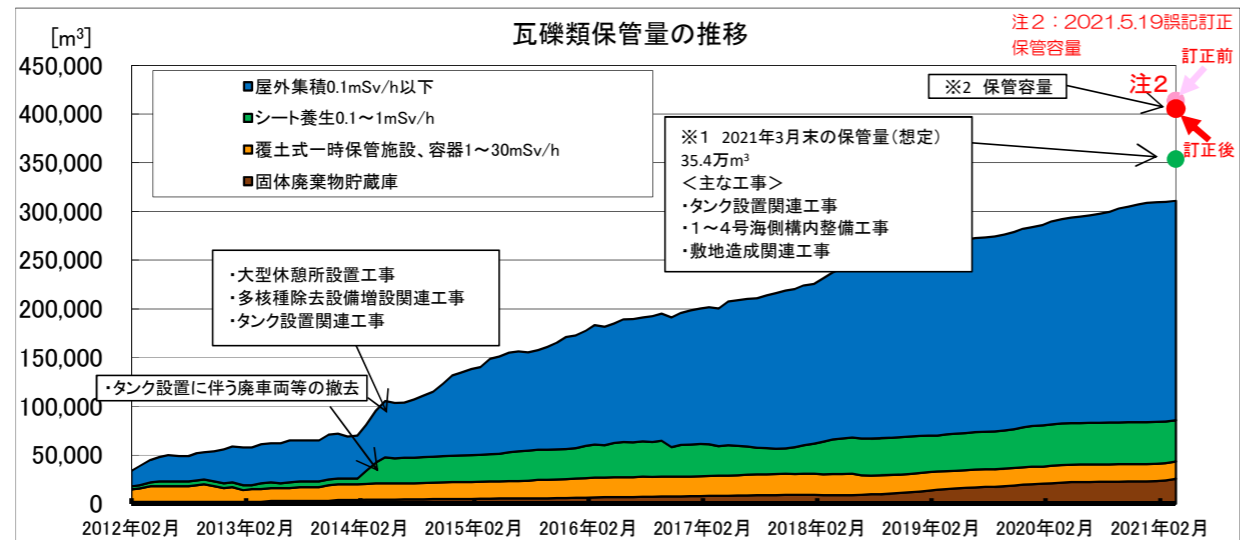
注1：2021.5.19誤記訂正

	訂正前	エリア 占有率	保管量/保管容量 (割合)	訂正後	エリア 占有率	保管量/保管容量 (割合)
固体廃棄物貯蔵庫	53%	25500 / 48000 (53%)	64%	25500 / 39600 (64%)		
合計(ガレキ)	75%		77%			

水処理二次廃棄物の管理状況(2021.4.1時点)

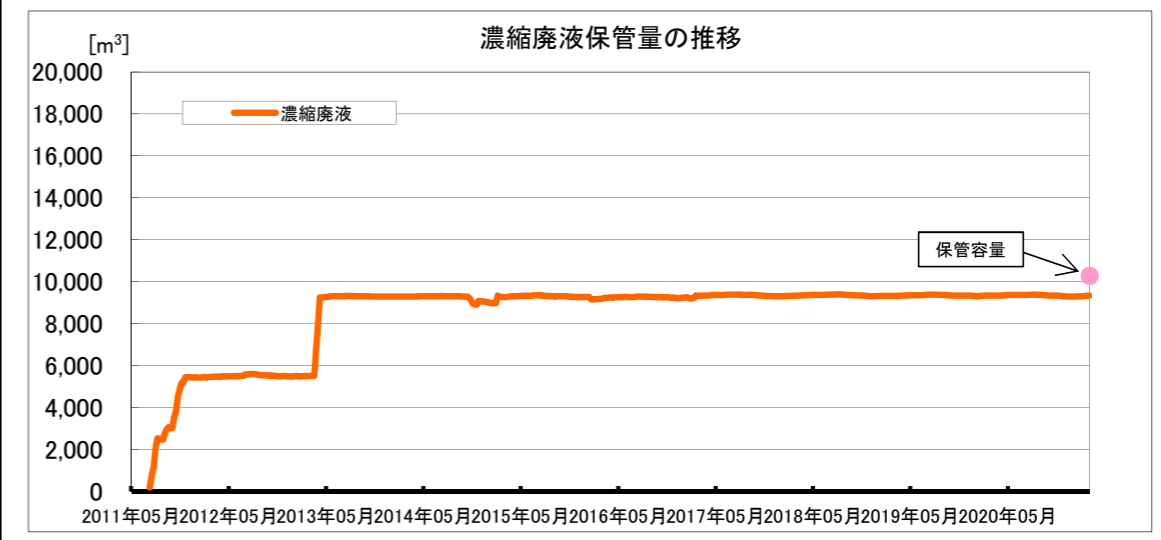
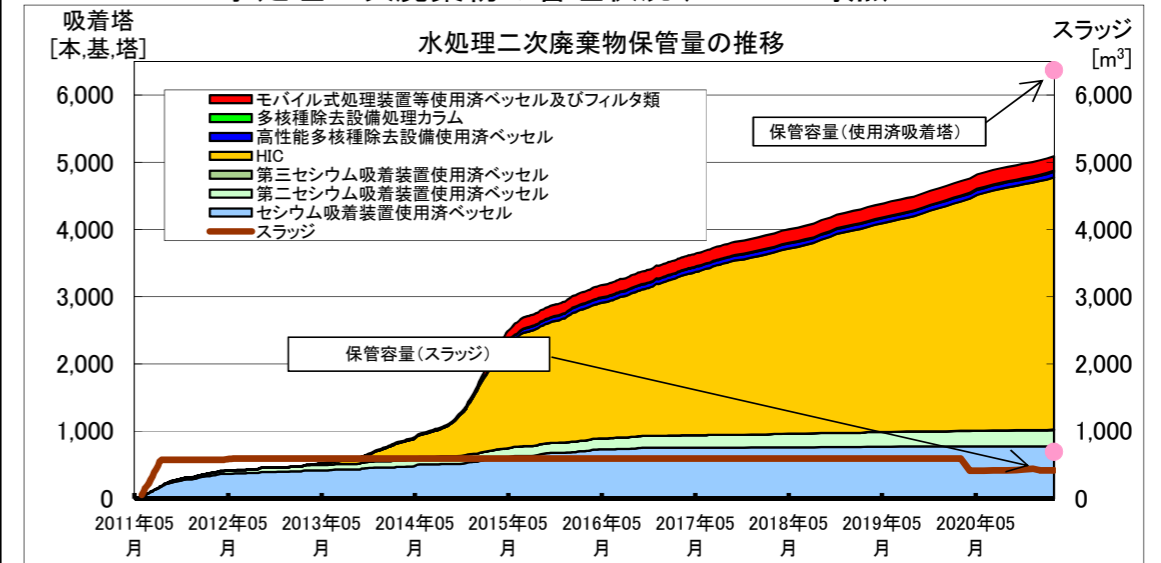
分類	保管場所	種類	保管量	前回集約からの増減 (2021.3.4 - 2021.4.1)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス
水処理 二次廃棄物 使用済吸着塔 保管施設		セシウム吸着装置使用済ベッセル	779 本	0 本	5090 / 6372 (80%)	
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	244 本	+4 本		
		第三セシウム吸着装置使用済ベッセル	7 本	+2 本		
		多核種除去設備等保管容器	1,895 基	+10 基		
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	83 本	+2 本		
		多核種除去設備処理カラム	17 塔	0 塔		
		モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類	215 本	0 本		
水処理 二次廃棄物 廃スラッジ 貯蔵施設		廃スラッジ	420 m ³	-1 m ³	420 / 700 (60%)	<ul style="list-style-type: none"> ・滞留水処理に伴う除染装置の運転計画は無く運転によって新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。
		濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,345 m ³	+23 m ³	9345 / 10300 (91%)

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2021.3.31時点)



※1 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量(想定)は、実施計画(2021年2月18日認可)の予測値を示す。
※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管容量は、運用上の上限を示す。

水処理二次廃棄物の管理状況(2021.4.1時点)



福島第一原子力発電所 廃棄物関連設備に関する進捗状況について

2021年4月27日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

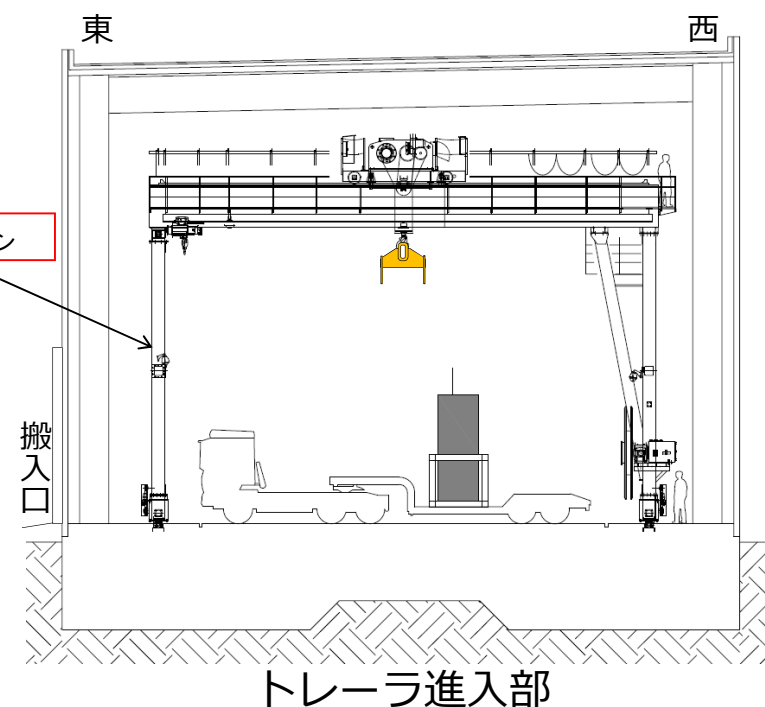
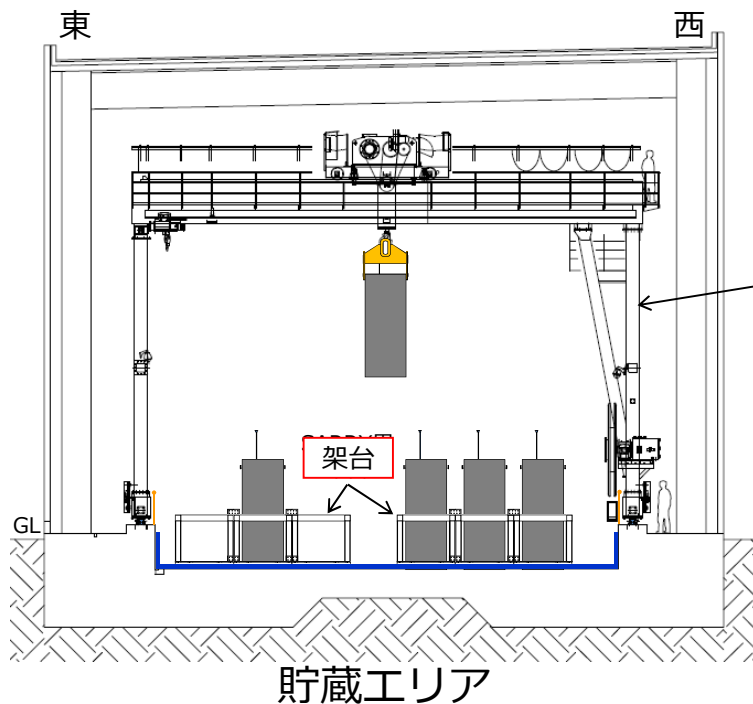
- 大型廃棄物保管庫第1棟については、2021年11月竣工を目指して建設工事中

- 本年2月13日に発生した地震に関する影響評価について検討を進める中で、揚重設備及び使用済吸着塔保管架台については、
 - ・長期に使用する設備であること
 - ・本設備は、これから設置する設備であるため、今回の地震を踏まえてより裕度の大きい設計にする以上の理由により、当該設備の耐震裕度を見直すこととした

- 竣工時期については、設計・製作工程等の見直し期間を確認した上で、変更を行う予定

大型廃棄物保管庫第1棟の概要

設備概要	汚染水処理装置の運転に伴って発生する水処理二次廃棄物など、大型で重量の大きい廃棄物を保管する施設
保管面積	第一棟：約0.43万m ² （吸着塔 744基：SARRY360、KURION384） （南北約186m、東西約23m、高さ約17m）
建屋構造	上屋：鉄骨-プレキャスト版造平屋建て（一部2階建て） 基礎・床版：鉄筋コンクリート造
耐震性	Bクラス：建屋、使用済吸着塔保管架台、クレーン転倒防止機構



減容処理設備設置工事の進捗状況

○設備概要

構内の廃炉作業に伴い発生した瓦礫類の内、金属を切断処理、コンクリートを破砕処理することを目的とし、減容処理設備を設置する。

◆建屋構造・規模

耐震クラス	構造	階数		軒高(m)	建築面積(m ²)	延床面積(m ²)
		地下	地上			
C	鉄骨造	0	1	約14	約5136	約5102

- ◆処理能力 金属：約60m³/日、コンクリート：約40m³/日
目標減容率は50%程度

○工事の進捗状況

◆準備工事

地盤改良・掘削：2020年9月30日～2021年4月28日（予定）

◆本体工事

基礎工事：2021年4月20日～2021年9月予定

鉄骨工事：2021年9月～2021年12月予定



配置図



現場写真